

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	さくら一む八軒		
○保護者評価実施期間	令和7年 9月 15日 ～ 令和7年 10月 20日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13 (回答者数)	10
○従業者評価実施期間	令和7年 9月 15日 ～ 令和7年 9月 30日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7 (回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 10月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	プログラムを作るときに、体幹やバランスなどの身体や情緒の安定を基本として作成している。土台となる心身を作り、その上でビジョントレーニングやきくきくドリル、記憶力を高めるプログラムなどを積み上げていくようにしている。	最初は難しいと感じた課題も、回数を重ねるごとにできるようになっていき、自信を持つようになる様子が見られた。今後必要な活動は回数を重ね、できたという経験を増やしていきたいと考えている。	難易度が上がっている様子を本人がわかるように示し、ここまでできるようになったという達成感が持てるように配慮していきたい。
2	保護者同士が交流できる場を設けた。今年度はペアレントプログラムを開催し、茶話会も複数回行っている。また、参観日のときにも保護者間の交流ができるように工夫を行った。	ペアレントプログラムは全6回行われ、それぞれの保護者が日頃悩んでいることや困っていることなどを共有し、心をひらいて活動に参加してくださった。茶話会では幼稚園入園や小学校入学にむけてのアドバイスが得られたり、情報の共有のしかたなどが話されて有意義な時間となった。	小学校の入学後は幼稚園保育園時代よりも先生と関わる時間が減ることで、困った時の相談先が減ってしまう傾向にある。今後も茶話会などの交流できる機会を設けていく。
3	個別の課題に合わせて運動面をサポートする活動を行っている。姿勢が崩れやすい、動きのぎこちなさなど一人一人の課題に合わせて、個別のプログラムを行っている。	難しそうと感じると拒否をする場面が見られることもあるので、友達が楽しそうに活動しているところをまずは見学し、やってみたいと思えるような環境設定を行ったり、得意な活動を入口として苦手な活動にも取り組みやすくするなどの工夫を行っている。	集中してものを見たり聞いたりすることができるようになるなど、効果が現れている場面も見られているので、取り組みを継続していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	施設の問題で、トイレが1か所しかないために活動の切り替わりの時間に混みがちになってしまう。	おやつの前、集団活動の前などにはトイレに長い列ができてしまうことがある。	自由遊びの時間全体がトイレの時間であると周知し、すいているときには声をかけるなど行列にならない対応を行っている。特に帰る準備の前の自由遊びには児童が自らテキパキとトイレに行き、スムーズに帰る支度の時間に移行できるようになっている。
2	小さいお子さんが多いため、プログラム内容が児童の実力に対して簡単と思われるときもある。	体力を使う活動や聞いた内容をアウトプットする内容などは周囲の小さなお子さんに合わせるとやや簡単な課題になってしまうことがある。	同じ内容でも難易度を大きく変えたり、SSTなど根本的に内容が違うものは2グループに分けて行うなどの対応を行っている。今後も必要なレベルに合わせて行えるよう工夫をしていく。
3			